

新医学系指针对应「情報公開文書」改訂フォーム

単施設研究用

※黒字 定型事項 消さないで下さい。

以下、本文-----

骨盤臓器脱に対するロボット支援腹腔鏡下仙骨脛固定、腹腔鏡下仙骨脛固定術の手術成績と術後アウトカムに影響する解剖学的評価の検討に関する研究

1. 研究の対象

2018 年 3 月～2025 年 12 月に当院で骨盤臓器脱に対して腹腔鏡下あるいはロボット支援腹腔鏡下仙骨脛固定術を受けられた方

研究期間；研究機関の長の実施許可日～2031 年 3 月 31 日

利用又は提供を開始する予定日： 2026 年 4 月 10 日～

2. 研究目的・方法

目的：中高年の女性に発症する特有の病気で骨盤臓器脱というものがあります。本来骨盤内におさまっている臓器（子宮、膀胱、直腸など）が垂れ下がってしまい、股から飛び出してくる状態を言います。その原因として、それら臓器を支える骨盤の底にある筋肉（骨盤底筋群）の衰えがあげられます。最近、この病気に対して、腹腔鏡下仙骨脛固定術（LSC）とロボット支援腹腔鏡下仙骨脛固定術（RASC）が行えるようになり、その高い有効性から徐々に普及しつつあります。

当院でも 2018 年から LSC を導入し、さらに 2021 年から RASC を開始しています。

本研究はこの手術を受けられた患者さんの手術成績や QOL 改善度などについて、一般診療で得られたデータを集計、解析することを目的としています。

方法：骨盤臓器脱に対して LSC あるいは RASC を施行した症例 100 例の患者さんを対象とし、手術成績、術後の合併症、術後の尿失禁量を測定します。さらに本疾患に関連する QOL スコアを記載してもらい、スコアを算出します。

3. 研究に用いる情報の種類

治療の有効性、手術成績（手術時間、出血量、合併症）、合併所の有無、再発の有無、術後尿失禁量術後尿失禁量、QOL スコア

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。
また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者 高知大学 泌尿器科学講座（病理学講座） 安宅香弥 088-880-2402

研究分担者 高知大学 泌尿器科学講座 深田聡 088-880-2402

研究責任者：高知大学 泌尿器科学講座（病理学講座） 安宅香弥

-----以上